

脳神経外科

1. 診療科紹介

当院は学会認定の専門医訓練施設で年間約80例の手術があり、その半数はいわゆる major surgery (脳腫瘍や脳卒中) である。これを2名の専門医で実施しているため、研修医の手術への実際的な参加は容易である(この点、大きな施設で時に見られる見学的助手とは異なる)。また、2次救急施設であるため、脳腫瘍のほか脳卒中・頭部外傷など救急患者も比較的バランスよく経験できる点も当科の特徴である。

2. 研修内容

後期研修(卒後3年目から6年までの4年間、脳神経外科専門医を目指す者)

研修目標: 一般脳神経外科の習得後、専門医の試験合格(合格率全国平均およそ60%)を目指す。

- ① 脳卒中や頭部外傷に加え、脳腫瘍や小児脳神経外科の修練を行う。小児脳神経外科については半年程度、小児病院に研修を依頼する(国内留学)、また、関連科目(神経内科、麻酔科、神経生理・神経病理)については、各2-3ヶ月程度のローテーションを実施し指導を受ける。
- ② 手術については開頭術の基本を身につけ、以降は本人の能力に応じて頭蓋内操作を必要とする手術に参加する。また、顕微鏡手術修練のため、小動物を使ったトレーニングを実施する。
例) 脳室-腹腔短絡術、慢性硬膜下血腫穿頭術、開頭血腫除去術、浅部の脳腫瘍摘出術など。
- ③ 学会活動については、自ら発表するとともに、教育的なレクチャーには積極的に参加する。また、毎週の症例検討会や抄読会では中心的に参加する。